柿野住民自治協議会たより

柿野住民自治協議会報

第 32 号
令和8年3月発行
編集制作：柿野住民自治協議会
事務局：松阪市飯南町横野848
飯南産業文化センター内

柿野住民自治協議会は「みんなが安全で安心して暮らせる町、柿野」～夢のある柿野、住んでいて楽しい柿野、いつまでも住みたい柿野～を目指して活動しています

柿野支援隊活動状況を発表

松阪市高齢者支援課主催の生活支援団体交流会で

柿野支援隊の活動状況を発表する竹岡会長（松阪市福祉会館で開かれた生活支援団体の交流会で）

住民による高齢者の生活支援サービス実施団体の交流会が令和 7 年 11 月 18 日、松阪市殿町の市福祉会館で開かれ、柿野支援隊の竹岡春俊会長が出席し、同隊の活動状況について発表しました。

松阪市高齢者支援課の主催で、松阪市内で高齢者支援活動をする 8 団体の代表者が出席。活動状況を発表し、意見交換を行いました。

交流会に備えて、柿野支援隊の設立に至った理由、経緯、アンケートの結果、実績、利用方法の手順などを紹介するレジメ「柿野支援隊の取り組みについて」を作成し、これを配布しました。竹岡会長は「高齢化社会に対応するため、住民による住民のための組織として立ち上げました。令和 6 年度はお年寄り延べ 22 人が利用し、協力隊員延べ 63 人が計 130 時間活動しました」などと報告しました。

「ボランティアを基本姿勢でやっているからこそ成り立つ組織」と説明

各団体の発表が終わった後、意見交換が行われました。他団体の出席者から柿野支援隊の運営資金のやりくりについて聞かれた竹岡会長は「1 時間当たり 1000 円の料金のうち、200 円を支援隊の運営資金として徴収しているほか、上部団体である柿野住民自治協議会から 1 万円を助成してもらっています。もちろん、これだけでは足りず、運営ができているのは協力隊員が基本的にボランティアとして活動しているからで、この精神がなければ、この組織は成り立ちません」と説明していました。

コミュニティ交通「かはだ」の利用説明会開催

電話予約でタクシーのように利用できる　大石、宮前にも運行

デマンド交通「かはだ」の利用方法について松阪市職員の説明を聞く住民のみなさん（2 月 15 日、飯南産業文化センターで）

松阪市は、飯高地域で運行しているコミュニティ交通「かはだ」を新たに 4 月から飯南地域でも始めることになり、乗り方の説明会を 2 月 8 日に鍛冶屋瀬集会所、15 日に飯南産業文化センターと長野生活改善センター、中西集会所、22 日に 3 番組集会所、3 月 1 日に東村集会所でそれぞれ開きました。

これまで飯南町内を路線バス方式で運行していたコミュニティバス「ほほえみ」を廃止し、電話で行きたいところを予約できるデマンド（要請）交通に変更するもので、運行区域も飯南町内だけでなく、診療所、道の駅のある飯高地区と医院、スーパーマーケット、ドラッグストア、ホームセンターがある大石地区を加えました。高齢で運転免許を返納し、通院、買い物の足がなくなったお年寄り世帯にとってはタクシーよりも安い料金で利用できる便利な乗り物制度が始まります。

柿野支援隊の通院・買い物支援の代替策として利用を！

柿野住民自治協議会ではこれまで柿野支援隊アンケートで要望の多かった通院、買い物支援策として車による送迎を検討してきましたが、自家用車で料金を受け取る送迎は白タク行為で道路運送法違反になるために実施できず、解決策を探していました。今回、松阪市が始めるデマンド型コミュニティ交通は、柿野支援隊の支援策に替わるものとして、対象者に利用を呼び掛けていきます。

三重交通の路線バス廃止に伴って始まったコミュニティバス「ほほえみ」は停留所でダイヤ時間に合わせて小型マイクロバスに乗り込む路線バスでしたが、コミュニティ交通「かはだ」は 5 人乗りの普通車で、飯南、飯高、大石に計 426 か所の乗降場所を設置。自宅から一番近い乗降場所と行きたい時間を電話予約（0598・53・9035）して利用する方式です。使い方の具体的な説明チラシは広報紙折り込みで配布されました。よく読んでご利用ください。

「モルック」を楽しむ

フィンランド生まれの頭脳ゲーム　大会を開いて普及図る

環境福祉部会は令和 7 年１２月２日、足し算が必要な頭脳ゲーム「モルック」（**写真**）を紹介する「モルック教室」を飯南体育センターで開きました。

モルックはフィンランド発祥で、ボウリングのようにピンを倒して数字を競うゲーム。投げる棒をモルック、倒す木製のピンをスキットルといいます。モルックを投げて倒れたスキットルの本数やそこに書かれている数字を得点として加算していき、先に 50 点ぴったりにしたほうが勝ちという頭脳的なゲームです。教室には主婦ら 18 人が参加。6 チームに分かれてゲームを楽しみました。柿野住民自治協議会では、今後、大会を催して普及を図ることにしています。

困ったら

柿野支援隊におまかせを！

（家の周囲が草ぼうぼう）

（古いソファを自分で処分できない）

※あなたが 80 歳以上、または障がい者で一人暮らしなら

柿野支援隊電話番号

090・5769・6948

または、民生児童委員、組自治会長へ依頼

※柿野支援隊の請け負う仕事はごみの処理　家周辺の掃除、除草、庭木の剪定、家の軽微な補修　畑耕運　電球交換など（業者ならやらないような仕事をあなたに代わって行います）

※利用者登録をしてもらい、依頼を受け付けたら、コーディネーターがお宅を訪問し、依頼の仕事を請け負うことができるかどうか確認。支援隊の規則に合った仕事なら請け負い、作業日を決めます。作業をする協力隊員にも連絡します。

※利用料金は

1 人 1 時間当たり 1000 円（30 分当たり 500 円）
運搬交通費 1 ㌔につき 25 円
作業用機材燃料費 1 ㍑当たり 230 円

※作業終了後、コーディネーターが料金を計算して請求しますのでお支払いください

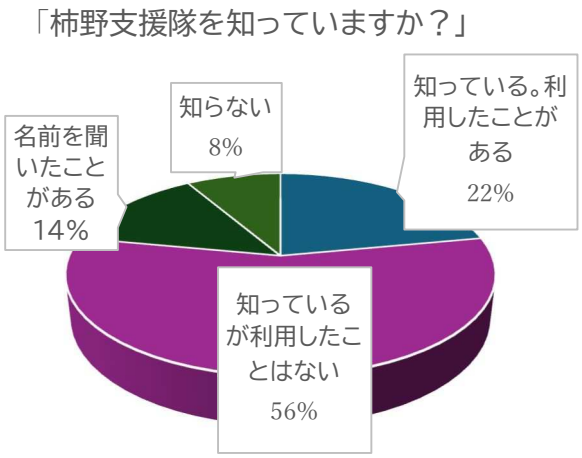
柿野支援隊アンケートで「利用方法がわからない」の声

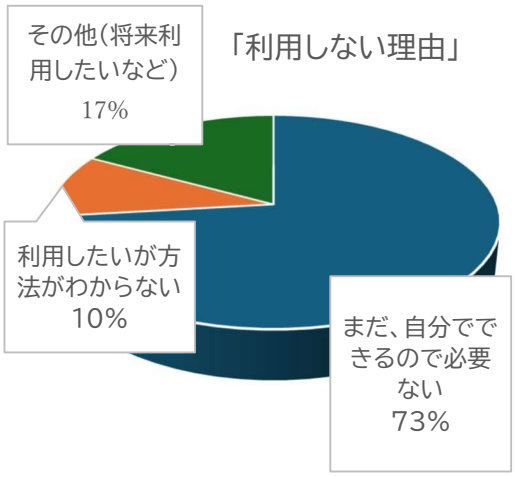
活動を周知徹底するなどの対策必要

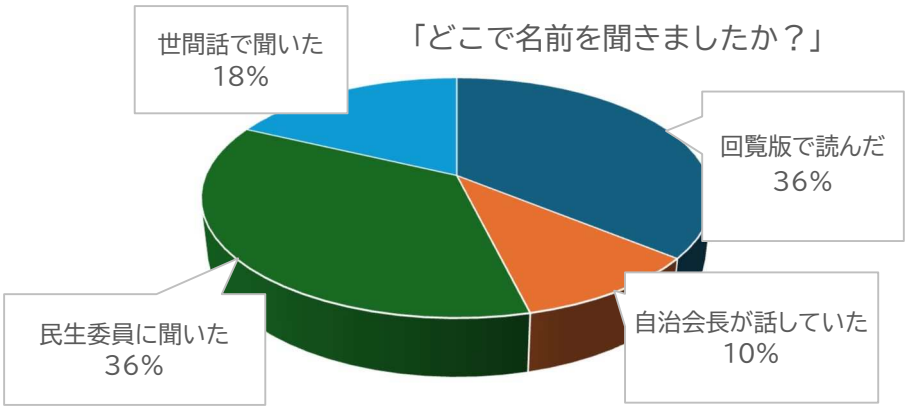
柿野支援隊が発足して 3 年が経過し、活動が住民に浸透しているかどうかを把握するため、令和 7 年 9 月に改めて 80 歳以上のお年寄りにアンケートを行いました。

活動について「知っている。利用したことがある」(22%)、「知っているが利用したことはない」(56%)「名前を聞いたことがある」(14%)、「知らない」(8%) の回答を得ました。「知っているが利用したことはない」と答えた方にその理由を尋ねると、「まだ、自分でできるので必要ない」(73%)「利用したいが、どうすればいいのかわからない」(10%)「その他（将来利用したいなど)」(17%) の回答がありました。「名前を聞いたことがある」と答えた方は、「回覧板で読んだ」(36%)、「民生・児童委員から聞いたことがある」(36%)、「自治会長が会合で話していた」(10%)「世間話で聞いた」(18%) との回答でした。

この結果分析から、団塊の世代が 80 歳を超える今後、3 年以降に柿野支援隊の需要が増えていくことが予想されます。このため、柿野支援隊としては、組織を形骸化させず、持続的に地道な活動をしていくこと。また、PR 不足で「活動を知らない」「利用方法がわからない」といった声があったことからチラシ配布などで活動を紹介し、周知徹底することにしています。







長寿を祝ってプレゼント

敬老の日でお年寄りに記念品配布

矢口さん（右）に敬老記念品を手渡す５番組の武藤自治会長

環境福祉部会は敬老の日（令和７年９月15日）を前に14日、管内の80歳以上のお年寄り205人に長寿を祝う敬老記念品を届けました。

９月１日現在、80歳になっている方への敬老事業で、対象は男77人、女128人。贈呈する品物は市指定ごみ袋と食器用洗剤、洗濯用洗剤の生活用品３点で、柿野住民自治協議会の竹岡春俊会長のお祝いの言葉も添付しました。

届けたのは各組自治会長で、横野５番組の武藤秀二自治会長は組内の対象者12人に敬老記念品を届けました。横野の矢口明さん（81）宅では、「敬老の日、おめでとうございます」と笑顔で手渡し、矢口さんも「ありがとう。元気に過ごしています」と答えていました。

自然災害から命を守ろう！

地域防災講演会開く

自治会部会は令和７年９月２１日、飯南産業文化センターで地域防災講演会（**写真**）を開き、いつ、発生するかわからない自然災害に対する日ごろからの備え方を学びました。

講師は宮前まちづくり協議会防災部役員で防災士の資格を持つ四十山（よそやま）義則さんで、飯南町内全域から74人が傍聴しました。四十山さんは「声かけ避難で逃げ遅れゼロの町」を目指すという宮前地区防災計画を説明し、住民100人が参加する防災訓練や飯高中、宮前小での防災教育に取り組んでいると紹介しました。防災の基本は「知る、備える、行動する」で、土砂災害予想エリアを示すハザードマップの危険地区だけでなく、他の地区でも想定を超える被害が出ることもあると指摘。避難を促す「声かけ」は対象者を事前にリストアアップし、避難へと導く仕組みを作ることが重要と力説しました。また、被災者の多くは危険が迫っているにもかかわらず、自分は安全だと思い込む「正常性バイアス」にかかり、すぐ避難しないことから、「声かけ」で危険であることを自覚させることが必要と話しました。柿野地区は宮前地区と同様の中山間地域で、土石流、地滑り、崖崩れの土砂災害が発生する恐れがあり、国道１６６号線の遮断で地区が孤立化する危険があることを指摘。今後30年の間に６～９割の確率で発生すると予測されている南海トラフ巨大地震に備えるよう、出席者に訴えました。

ビニール袋を使った炊飯など体験

深野、横野両区で防災訓練

令和７年１０月１９日、深野区で災害避難訓練が行われました。東村組など深野区の８つの組自治会と地元消防団員の計３５人が参加し、避難誘導、ビニール袋を使った炊飯、防災講習会で自然災害時に命を守る術を学びました。

参加者は来迎寺前の駐車場から松阪市飯南和紙和牛センターまでの約３００メートルを消防団員の誘導で避難する訓練を行いました。和紙和牛センターではカセットコンロに乗せた鍋に米半合と水１２０ccをビニール袋に入れて約３０分沸騰しました。試食では皆が「米の芯が残っておらず、普通においしい」と話していました。また、防災講習会では地区の危険個所を示すハザードマップの見方や松阪市の災害対策本部が発信する緊急速報メール（エリアメール）など情報の入手方法などを学び、いざというときに備えました。

ビニール袋を使った炊飯を体験する参加者のみなさん

横野区では１１月９日、各組自治会長らが旧町民センター跡地で消火栓を使った消火訓練を行いました。また、１０月２６日には、柿野、仁柿両住民自治協議会主催による避難所解錠訓練が避難所に指定されている横野の飯南体育センターで行われ、各組自治会長らが防災倉庫の場所や解錠方法、どんな備蓄品や防災資材があるか、確認しました。

一打に集中！　46 人がグランドゴルフ

柿野住民自治協議会と松阪市飯南公民館共催のグラウンドゴルフ大会（**写真**）が令和７年１０月 18 日、粥見の飯南グラウンドで開かれ、11 歳から 95 歳までの 8 チーム 46 人が参加しました。3 人が一打でカップに入れるホールインワンを達成し、16 打の最少スコアで回った小山利郎さん（仁柿 B）が優勝しました。

この日は朝からあいにくの小雨模様。途中から雨が強くなり、グラウンドの状態が悪くなったことから、当初予定していた 1 ゲーム 8 ホールの 2 ゲーム制を 1 ゲームで打ち切りました。同点打の場合、年齢が上の人を上位にして成績を決めました。

成績は次の通り（10 位まで、敬称略）

① 小山利郎（16 打、仁柿 B）②青木節子（18 打、仁柿 A）③野呂喜久子（19 打、新緑会 A）④和田幸也（21 打、仁柿 A）⑤西川敏夫（21 打、仁柿 A）⑥久世徳男（22 打、仁柿 A）⑦谷口周二（22 打、明昭会）⑧山本博生（22 打、仁柿 B）⑨松井優（22 打、仁柿 A）⑩樹下正（22 打、新緑会 A）

コーヒーをおいしく淹(い)れるには

珈琲(コーヒー)の淹れ方教室開く

環境福祉部会は令和 7 年 11 月 12 日、飯南産業文化センター調理室でコーヒーの淹(い)れ方教室（**写真**）を開き、12 人が、上仁柿で「みなまた珈琲」を経営する久世惇人(あつと)さんから豆からひくおいしいコーヒーの淹れ方を学びました。

久世さんはアフリカ・ルワンダでコーヒー豆の栽培から焙煎、淹れ方まで、コーヒーの勉強をしてきた達人。教室にはブラジル、ルワンダ、ケニア、コロンビアなど 6 種類のコーヒー豆を持ち込み、ブレンドして極上のコーヒーを淹れる技を披露しました。「お湯の温度は 90 度前後、フィルターに直接かけず、中央部分にドームができるように淹れるのがよい」との説明に参加者はメモを取りながら聞き入っていました。また、焙煎(ばいせん)の古い豆と新しい豆での淹れ方比較、紙フィルターと網目金属フィルターで淹れたコーヒーの比較、焙煎を濃くした豆と浅い豆の比較をし、皆がそれぞれ、試飲しました。好みは人によって違うため、「私はこちらのほうがいい」「雑味がなく、まろやか」などと感想を話しながら試飲していました。

楽しくロールケーキづくり

お菓子づくり教室に 23 人

星野さん（中央）**の指導でロールケーキづくりを楽しむ参加者のみなさん**（飯南産業文化センター調理室で）

環境福祉部会は令和 7 年 12 月 4 日、飯南産業文化センター調理室でお菓子づくり教室を開きました。主婦ら 23 人が参加し、ロールケーキ作りを楽しみました。

講師は粥見の菓子店「甲子軒」代表の星野美沙希さん。時間の関係でケーキの生地と生クリームは事前に星野さんが用意し、クッキーづくりとケーキの巻き方の指導を受けました。クリスマス用ということから、ケーキに添えるクッキーはツリーやサンタクロース、ハート形などの型抜きを使って焼きました。ロールケーキは横 18 ㌢、縦 25 ㌢の大きさで、星野さんから「巻きやすくするため、生クリームは先を薄く、手前は厚く塗りましょう。イチゴは薄くスライスして置きましょう」とコツを教えてもらいながら、ケーキ生地を巻きました。出来上がったロールケーキとクッキーはそれぞれ持ち帰りました。

あなたが人の命を助ける

救命講習会に 18 人

AED を使った救命措置を学ぶ参加者のみなさん（飯南体育センターで）

自治会部会は令和 7 年 11 月 19 日、飯南体育センターで救命講習会を開き、主婦ら 18 人が AED(自動体外式除細動器)の使い方や胸骨圧迫法などを学びました。

講師は松阪地区広域消防飯南分署の消防職員 5 人で、心臓マッサージの手の使い方や AED の使用手順を説明。参加者は「どなたか、AED を持ってきてください」「119 番通報をお願いします」と周囲の人に指示を出し、訓練用の人形を使って胸骨圧迫や AED による救命措置を体験しました。また、消火器を使った消火訓練にも取り組みました。

風船でボールづくり

バルーンアート教室に 29 人

教育文化部会は令和 7 年 1 2 月 7 日、飯南産業文化センター研修室で風船を使ってアート作品を作るバルーンアートづくり教室を開き、親子連れなど 29 人が参加しました。

講師は元県職員で、中部台運動公園にある県立みえこどもの城に勤務中、子どもたちにバルーンアートづくりを指導していた下仁柿の水本安雄さん。年末恒例になっているもので、今回は 3 本の風船を丸めて組み合わせたボールと花束づくりを指導しました。力を入れすぎて風船が破裂し、「パーン」という音が部屋中に響きわたる中、子どもたちは一生懸命ボールづくりに取り組んでいました。

風船を組み合わせたボールと花束づくりを指導する水本さん（左から 2 人目　飯南産業文化センター研修室で）

深野和紙を漉いてみました

歴史文化学習会で 20 人が伝統工芸を学ぶ

保存会員（左側）**の手助けで深野和紙を漉く参加者のみなさん**（飯南和紙和牛センターで）

教育文化部会は松阪市飯南公民館と共催で令和 8 年 1 月 23 日、深野の飯南和紙和牛センターで歴史文化学習会「紙漉（す）き体験教室」を開き、飯南町外の参加者 4 人を含む 20 人が伝統工芸の深野和紙づくりに挑戦しました。

深野地区は南向きの日当たりの良い斜面にあり、紙を乾燥させやすいことや紙の色が白くなる鉄分が少ない水、原料のコウゾ、ミツマタ、ガンピが近くに自生しているなどの地理的条件が合い、安土桃山時代から紙の生産が盛んで、紀州藩札（松坂銀札）に使用されるなど、地場産業として栄えました。戦後衰退しましたが、近年、深野和紙保存会が結成され、1994（平成 6）年には三重県の第一次県伝統工芸品に指定されました。深野和紙は洋紙より強く、保存が効くため、旧飯南郡の学校の卒業証書に使われています。

体験教室では深野和紙の歴史や製造工程を紹介するビデオを見て、勉強した後、保存会員 8 人の指導で「かみすきコテ」という道具を使って紙を漉く作業を体験しました。作った紙はすぐ乾燥させ、参加者は自分で漉いた紙を手にして喜んでいました。

JA 職員がオクラとトマトの栽培法を指導

野菜作り教室に 16 人

自治会部会は 2 月 20 日、飯南産業文化センター研修室で野菜作り教室（**写真**）を開きました。家庭菜園などで野菜を栽培する 16 人が参加し、JA みえなか飯南営農振興センターの東川健司さんと JA 全農みえ肥料農薬課の長谷川頌子（しょうこ）さんから夏野菜の作り方を学びました。

東川さんはオクラとトマトの栽培管理について指導。オクラは収穫適期が大変短いため、採り遅れに注意が必要で、開花から収穫までの目安は 6 月で 7 日間、7 月で 4 日間、8 月で 3 日間、早朝に収穫するよう、注意を促しました。トマトは昼間に光合成で作った養分を夜間に果実に蓄えて甘い実にします。ヘタの近くまで赤くなれば収穫時期で、早朝に採り入れてと説明しました。

長谷川さんは夏場の高温、乾燥対策として、「スキーポン」の使用を紹介しました。これは酢酸で、根元に散布すると、乾燥時、作物内で酢酸が合成され、乾燥に強くなるもので、効果は最長 3 カ月持続する。夏場の生育が大幅に改善する研究実績を紹介しました。また、2 人は参加者との質疑応答でも栽培の適確なアドバイスをしていました。

絶景見ながら歩きました

深野の健康ウオーキングに 34 人

環境福祉部会は 3 月 8 日、深野の神路山を巡る健康ウオーキング大会を開き、参加した 34 人が急坂の多い約 2・5 キロのコースを元気に歩きました。

この日は肌寒い天候で、標高 250 ㍍と、山の頂上に近い深野・神路山はさらに気温が低く、多くの人が厚着で参加。御劔(みつるぎ)八幡神社・秋葉神社では地元で名産松阪牛を飼育する森本武治さんから「この神社は昔から災害の多かったこの地区の守り神として建立され、信仰されてきました」と由来の説明があり、全員で参拝しました。この後、近くにある森本さん経営の松阪牛の牛舎を見学しました。森本さんは「松阪牛と呼ばれる牛は 2000 頭ほどいるが、その中でも特産松阪牛は 480 頭ほど。私はその特産松阪牛を飼育しています」と説明（**写真**）し、牛舎内を案内。ずらり並ぶ立派な体格の牛を前に「自分の子供を育てるのと同じような気持ちで飼育しています」と話していました。皆は「牛の目がかわいい」などと言いながら牛舎内を見て回りました。参加者は約 1 時間半、山の斜面に広がる絶景を堪能しながら歩きました。

毎月 11 日は黄色のレシートを柿野住民自治協議会の BOX に投函してください！

毎月 11 日に**マックスバリュ各店**で発行される黄色のレシートを大石店に置いてある BOX に入れてください。レシート金額の 1 %が柿野住民自治協議会の事務用品代として助成支給されます
ご協力をよろしくしお願います

編集後記

IT（情報技術）の普及で高齢者受難の時代になっています。マイナンバーカードに健康保険証がひもづけられました。医院に行ったとき、前に並んだお年寄りが受付でマイナンバーカードの読み取りをしていました。「暗証番号を忘れた」と受付の女性に言ったところ、「顔認証でお願いします」と言われたお年寄りは「顔でどうやって認証するんや」と戸惑っていました。組自治会の亡者連絡はスマホアプリ「LINE」のグループラインで一斉送信されてきます。高齢者が使い易い「らくらくホン」を手にした人から「ラインって何？どうやって入れるの」と不安そうな表情で聞かれました。災害時、松阪市の災害対策本部からエリアメールでスマホに避難情報などが送られてきます。前は各戸に備え付けられた防災行政無線機のスピーカーで避難情報などが聞けましたが、廃止されました。防災行政無線局の大型スピーカーから流れる音声は台風のとき、よく聞き取れません。スマホを持つことは必須の時代です。「よくわからんからスマホを持ちたくない」と、ごねている場合ではありません。スマホがなくては生活できない時代になっているのです。住民自治協議会でもお年寄り向けのスマホ教室を開いて、せめて基本的な操作ができるようにしなければならないかも。貯金をだまし取られるトクリュウ（匿名・流動型犯罪グループ）の被害に遭う危険もありますが・・・（こ）